

神様との疎通の祝福 (マルコ 11:27-33)

ほとんどの人は、教会の信徒であっても、問題の前で、悩み葛藤をして、もがいたり、人に助言や助けを求めます。しかし、結局、空回りしてしまうのはなぜでしょうか。人間は、犬や猫のような動物ではなく、神様が神のかたちに造られた神様と疎通できる存在です。それなのに、みことばを聞くことができず、聞こうともしないので、空回りするしかないのです。マタイ 4:4 に「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことで生きる」と言われています。これが欠けると努力しても、悩んでも空回りになるのです。

1. 人生の不幸は、神様との疎通が途絶えたことにある。

1) 表の不幸と不幸の根本

貧しさ、病気、事故、人から無視されること、差別、誤解、濡れ衣、攻撃、いじめ、孤独、さびしさなどを不幸とありますが、それらは表の不幸です。本当の不幸は根本の原因があります。神様との疎通が途絶えたから、あらゆるかたちで現れているのです。

2) みことばと信仰による疎通

人間に必要なことは、何よりもまず、神様との疎通が回復することです。それを心に刻みましょう。神様は霊なので、「霊とまことによって礼拝しなければならぬ(ヨハネ 4:24)」と言われているように、たましいが聖霊の導きを受けることによって、まこと、すなわち、みことばによって疎通するのです。神様から出るみことばを信じる信仰によって神様と疎通するのです。神様は、アダムにみことばをもって現れてくださいました。

3) みことばを捨てて、自分の思うがままに(サタンのささやき)

そのような神様のみことばを捨てたのです。それは、自分の思うがままに動いたので

すが、悪魔のことに従ったということです。

4) 自分の思いと世論(人の声)に囚われて

今も世の中は、ヒューマンイズムを称賛し、ありのまま、あきらめずにいれば勝利や成功をしますと言いますが、それは幸せではありません。神様と疎通すべきなのに、自分の思うとおりにするので、悪魔の奴隷になるのです。みことばが遮断され、積極的にみことばを聞かないような存在になってしまいました。ロトが婿に町が滅びると言ったのを、婿たちは「冗談だと」思ったのですが、そのようにみことばを冗談と 생각합니다。士師 21:25 にあるように自分の目に正しいと思うことをする「自分」が基準です。イエス様が来られる前の 400 年間、神様の啓示、みことばが途絶える暗黒時代でした。サムエルの時も、神のみことばがまれであったと言われてるように暗黒時代でした(1サムエル 3:1)。みことばが途絶え、神様と疎通できないと、生まれながら御怒りを受けるしかない存在なのです(エペソ 1:1-3)。それが、今日の聖書箇所のパリサイ人たちの姿です。

5) 疎通の回復-みことばで訪れて来られる。

神様は疎通の回復を願われますが、その手段はみことばです。礼拝の大切さを覚えましょう。ノアに箱舟を造るように、アブラハムにカナンに行くように、また、モーセにも語られたように、みことばで疎通を回復されました。みことばそのものであるキリストを送ってくださったのです(ヨハネ 1:14)。みことばそのものであるイエス・キリストを受け入れることで、だれでも神様と疎通が可能な存在に造り変えられます。それが幸せなのです。不幸な人生は終わります。疎通可能な存在になることが始まりです。

2. みことばによる神様と疎通ですべてが変わる。(ヘブル 4:12)

実際に疎通すると、すべてが変わります。恵みによってみことばを受け入れるようになった、いのちある神の子どもは、神様のみことばが聞こえる存在になります。みことばが具体的に、実際的に入って動くと必ず変わります。それを癒やしと言います。

1) 自分自身の変化

①自分から自由

自分が知っている自分から自由になります。すべてが新しくなり(Ⅱコリント 5:17)、天にあるすべての霊的祝福を受けます(エペソ 1:3)。

②世に対する欲望から自由

みことばが入ると、創世記 3,6,11 章(自分、肉、この世の成功)から自由になります。三位一体の神様の御座の祝福が臨むので、肉体的な答えから自由になります。滅びる世を生かすために召された証人なので、この世に対する欲から自由になり、使命を持つようになります。

③言い訳から自由

いままで、なにかのせいにしていた言い訳から自由になります。条件、状況、環境を超越して、「知らなくても良い」と言われたので、みことばの力によって神様と疎通することによって、変わるようになるのです(使徒 1:8)。

2) 教会の変化

①講壇②職分③エペソ 4:16

1 部-マルコ 11:27-33 神様との疎通の祝福

なるほど/人生の不幸は、神様との疎通が途絶えたことであり、キリストとみことばによる疎通の回復でその人と教会、現場が変わる。

ならば/自分の考えや人の声に惑わされずに、みことばが聞けることを感謝し、講壇の流れに乗って祈ろう!

2 部-マタイ 6:31-34 変えられた信者

なるほど/救いにより自分の存在と願い、生き方が変えられたことを認めることが癒しとなる。

ならば/プラットフォーム、見張り台、アンテナの祈りを味わい、礼拝でそれを確認しよう!

④みことばによる一致

自分自身が変わった人は、教会、講壇、重職者を大事にします。いろいろな人が集まるのですが、尊重して、みことば第一で、みことばによって一致します。そうすれば、教会が変わり、自己主張することもなく、他の人に仕えるようになります。

3) 現場の変化

そうすれば、現場が変わります。

エペソ 2:1-3、マタイ 5:14、Ⅱコリント 5:20、エペソ 1:23、ルカ 10:19

キリストの福音でなければ希望がない、暗闇の現場です。そこに光として派遣されているのです。神様と疎通して、その疎通を大事にしている人は、現場で光を放ちます。それがやぐらです。キリストのからだなる教会として、自分を通してキリストの愛、力、わざがあらわされるようになっています。暗闇の力に打ち勝って、現場を助ける権威も与えられています。そのような一人がいれば十分です。契約として握って祈りましょう。

みことばが聞ける祝福を感謝しましょう! 自分の考えや人の声は要らないことを認めましょう! みことばから答えを見つけることができます。3、9、3を味わう祈りしましょう! そして、講壇の流れに乗りましょう! みことばによる神様との疎通の主人公になるように、信じて祈りましょう。